

# 岡本啓展

- photograph -

『薄片/Thin Section』

会期：11月7日（金）～11月29日（土）11:00～19:00 [日、祝、休廊]

オープニングレセプション：11月7日（金）17:00～19:00

この度、Yoshiaki Inoue Gallery では、光の三原色に反応して色を出すという印画紙の特性を利用し独自の表現を展開している岡本啓氏の新作展を開催致します。

岡本啓(おかもと あきら)は1981年大阪府生まれ。2004年に大阪芸術大学美術学科卒業。通常「写真」は、カメラで撮ったフィルムを現像後、それに現像用の光を通し、映し出された画像を印画紙に定着させ作られるが、岡本はカメラを使わず暗室内で現像薬品と様々な色の光を駆使し、フィルムを通さず直接的に印画紙に色を付けていく手法を採っている。カラープリント用の印画紙はその構造上、当てられた光に反応して様々な色を浮かび上がらせることができる。それは印画紙がベースになる台紙に赤、緑、青のいわゆる光の三原色に反応し、色素の科学反応によって発色する3層にコーティングされているためである。岡本はその印画紙に含まれる色を、現像薬品と光で浮かび上がらせ作品としている。一見コンピューターグラフィック的な作品は、写真現像の工程を工夫した手作業による「描く」行為で制作されています。

仕上がった作品は通常の額装ではなく、透明度の高いアクリル樹脂を密着一体化させ、シャープさと奥行きを感じられる装丁になります。

今展では断面図のようなモチーフの「薄片」シリーズを発表、より神秘的となった新作を中心に展示致します。

## 《今展の制作について》

写真は薄さの表現である。物質感のなくなるぎりぎりのところ。

例えば葉脈標本のように、或いはCTスキャンのように、ものの一側面を切り取って見せる。スライスされた一側面は美しく少し恐ろしくもあり、世界の原型を見ているような感覚がある。写真とは、削ぎ落とされた物質感の中で、それでもなにもものかの原型を作る仕事なのかと思う。(2008年10月 岡本啓)

## YOSHIAKI INOUE GALLERY

Shinsaibashi Inoue Bldg 3F 1-3-10 Shinsaibashi-Suji Chuo-Ku, OSAKA 542-0085  
Tel : +81-6-6245-5347 Email : info@gallery-inoue.com